

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2026年2月1日 269号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

物流改善・アスンシオン市場開拓へ

ロマプラタに水産新拠点

ロマプラタ(Loma Plata)はパラグアイ北西部、ボケロン県にあり、グランチャコ地域の中心地。首都アスンシオンからの道路距離約450km、レダからは同約370km。アスンシオン他、パラグアイの主要都市に舗装道路が通じている交通の要衝です。ロマプラタの新拠点はレダのパクーを販売する為の拠点として2025年11月に開設。今回、水産事業現場責任者の滝川さんと、新拠点門番担当の金井さんに話を聞きました。



「これまで遠隔地であるレダからの販売は「配送」という物理的な制約が大きな課題となっていました。2025年11月、ロマプラタの拠点開設により物流面での環境が改善され始めています。

1. 物流体制の刷新、370kmの距離を克服：これまで、レダからボケロン県の主要市場である、ロマプラタ、フィラデルフィア、ノイラントまでは、約370kmの距離に加え、雨天時には通行が困難になる未舗装路が障壁となっていました。そのため、配送は注文をまとめて月1回程度行うのが限界であり、顧客を2週間以上待たせてしまうことが常態化していました。

しかし、金井さんの協力により、ロマプラタに商品保管およびスタッフの滞在拠点が確保されたことで、この状況は改善され始めました。現在、拠点には500リットルの冷凍庫2台が



Japanクオリティのパクーを市場に

写真上：レダの養殖場で水揚げと同時に実施している活け締め。魚の苦痛を抑えるとともに、鮮度を極限まで保ち、魚肉の品質を向上させる日本の伝統技。

より、ロマプラタに商品保管およびスタッフの滞在拠点が確保されたことで、この状況は改善され始めました。現在、拠点には500リットルの冷凍庫2台が

2. 在庫リスクの軽減と精神的負担の緩和：拠点がなかった時期、現場を最も悩ませていたのは売れ残りのリスクでした。遠路輸送した冷凍魚はその日のうちに販売しなければ品質維持が難しく、現場対応に追われることが多々ありました。「以前、スーパーから100kgの注



ロマプラタの新拠点：貯蔵室やリビングが広く、立地も好い。

文を受けて納品に向かった際、『在庫があるため半分でよい』とキャンセルされたことがありました。手元に残った30kg以上の魚を夜遅くまで近隣店舗を回って販売したこともありま

す。(滝川さん) こうした時間的な制約や品質管理の懸念は、ロマプラタ拠点の稼働により解消されました。予定変更やキャンセルが発生しても、拠点に戻れば即座に再冷凍できるため、落ち着いて営業活動に取り組める環境が整いつつあります。

「大変なことが多かったですが、その分、神様の導きを感じるような、奇跡的な出会いなども多かったですね。(滝川さん)」 3. ボケロン県の現状と、コンセプション(Concepcion)市場での課題：現在、販売の主戦場であるボケロン県においては、主要な販売先は8割方開拓済みと見ており、リピーターは定着しているものの、地域内での大幅な伸長は限定的と見ています。今後は個人販売の強化や、信頼性向上のためのウェブサイト活用を進める方針です。

一方、新規開拓を試みたコンセプション市場では課題が残りました。先月100kgの在庫を持ち込んで営業を行いました。初日の売上は20kgに留まりました。現地では「養殖魚よりも天然魚が質がいい」という評判が定着しており、価格競争も厳しいのが実情です。(次面につづく)

水産事業（一面よりつづく）「コン
セプション市場は、経済規模の点
でも、ロムプラタ周辺と比較して
シビアな反応でした。2026年
度は、より購買力のある首都アス
ンションへの進出を軸に据え、



●500ℓ冷凍ストッカー内の冷凍パクー商品。



●新拠点の冷凍ストッカー、計量器、保冷箱など。

準備を進める必要があります。
（滝川さん）」

4. 商品展開の課題と、加工品への着手：首都アスンション市場や大手スーパーへの参入を目指す上で、課題となっているのが、商品ラインナップです。

現在、ペスペランサはパクーの丸ごと冷凍商品（上の写真）が中心ですが、バイヤーからは「パクー単体では取り扱いを決めにくい」との指摘を受けています。競合である大手養殖業者などは、パクーに加え、テラピア、魚のハンバーガーやフライドポテト、鶏肉までを取り揃えており、その差は歴然です。「パクー単体だけの営業には限界があります。他の商品とセットで提案できるように、早急にフィレ加工を導入し、調理の利便性を高める必要があります。」

フィレ加工には行政の許認可が必要ですが、これをクリアすることで、大手スーパーへの正式参入が可能になります。（滝川さん）

5. 新体制の確立、岩本さんの加入と2026年への展望：今後の事業拡大に向け、組織体制も強化されました。水産メンバーとして岩本さんが加わり、稚魚の孵化や日々の飼育管理を担当することを予定しています。

これまで製造から販売までを一人で抱えていた滝川さんは、管理業務の一部を岩本さんに委ね、自身は営業活動や新規開拓に時間とエネルギーを集中することが

可能になります。製造現場の安定と、営業の機動力を両立させる分業体制が整いつつあります。

また、2026年にはカルメロ・ペラルタとブラジルを結ぶ橋が開通する見通しであり、物流インフラの更なる向上が期待されます。

ブラジル市場への展開も視野に入っている中、アスンション進出にはスペイン語と車の運転ができ、パラグアイの商習慣を理解して営業できる人材が不可欠です。

今後は、個人の行動力に頼る段階から、ウェブサイトやSNS、そして組織的な分業体制を駆使した営業スタイルへの移行を進めていきます。現場を知る強みを活かし、着実に事業の地盤を固めています。

ロムプラタ拠点の活用：岩本さんを迎えた新体制、加工品の開発、これらの要素を組み合わせ、首都アスンション、そして国境を越えた市場への定着を目指し実務的な取り組みを続けていきます。

新拠点を助け、守る男

【金井国康さんに聞く】

現在、パンタナール・レダのプロジェクトは、実年世代の参加者たちが増えています。その中には起業・経営の経験者もおられ、ゼロから事業を作り出した経験がレダのプロジェクトに活かされる体制ができてきました。今回、そんな新参加者の一人で、ロムプラタ



の新拠点の開設を資金面で支援し、また守る人としても拠点の鍵を預かる、金井国康（くにやす）さんに話を聞きました。

支援の理由とレダ事業の意味

Q：金井さんの約2万ドルの支援もあって、今回ロムプラタの拠点が開設できるようにになりました。金井さんが支援をしてくださることになったきっかけは？

金井「『ひとこと』で言えば、水産担当の若者、滝川さんの話を聞いて「これは応援しなくては」と思ったからです。昨年、彼と話す機会があり、水産事業での日々の様子を聞かせてもらいました。彼は冷凍パクーをトラックに積んで、レダからロムプラタへ370km以上の距離を夜を徹して移動します。

11月、ロムプラタに着くと運転席で仮眠をとった後、配達や販売を行い、さらに町で新規顧客開拓の飛び込み営業をして夕方を迎え、その後またトラックで少し休んでからレダまで運転して帰るといふハードワークをこなしていました。

レダからロムプラタの道はほぼ舗装されていないガタガタ道で、370kmの道程を走る場合とはわけが違います。その道は、まとまった雨が降ると通れなくなり、配送ができず顧客への信用を落としてしまおうという悩みもありました。それ故、ロムプラタに拠点があれば様々な問題が解決して、水産事業の業績を伸ばせる可能性が高まる……という話だったのです。これは何とかしなければ、と思いました。」

商品冷凍庫を守って

Q：金井さんはアスンション在住でしたが、新拠点のためにロムプラタに引越されたのですか？

金井「はい、そうです。私はアスンションで独り住まいをしていました。幸い、ネット環境さえあればできる仕事を生業にしていたので、思い切ってロムプラタに引越すことができました。今は、この拠点の一室を住まいとして、パクー商品の冷凍庫を守りながら生活しています。『次面につづく』

ロマプラタ新拠点(前面より続く)

金井さんは笑いながらそう話してくれましたが、スペイン語もまだよく話せない69歳の男性がたった一人、不慣れな地で新生活を始めるには相当の決意が必要なはず。アスンシオンに居れば、パラグアイ事情に明るい佐野氏や石井君、島田ファミリーなどレダチームの面々、アクアムンド社のジョン佐藤ファミリーなど、日本人の知人が沢山います。路線バスも多く、車を運転しない金井さんでも、大きな不便はない。でもこのロマプラタではたった一人。本当に心細いのではないかと思います。しかし、金井さんは「創始者の韓総裁の今の身の上を思えばロマプラタは天国ですよ」と笑っていました。さらに続けて、金井さんはこんなことも話してくれました。

金井：『韓総裁が2024年7月



ロマプラタの新拠点には、広いリビング、貯蔵室、寝室、台所、駐車場等があります。

にブラジルのジャ

ルジンに来られて「文総裁と共に計画した環境創造を絶やさず進めて欲しい」と切実に語られました。今世界中を見ても、私たちが目指す理想世界の1次産業、2次産業で「環境創造」

をすべく具体的に動いているのは南米のレダしかないと思うのです。今のパクー養殖3万匹をもっと発展させ得ると聞いていますし、パクーの他にも商品ラインナップが増える予定です。水産商品の配送・流通を発展させる「ホールセール事業」の構想を考えると、とても希望が湧いてくる場所だと感じます。このような事業興しのモデルは、ここにしかないと思うのです。』

なぜパラグアイに来たか？

ここで、金井さんがなぜ今パラグアイに住んでいるかをご説明しましょう。その経緯が、金井さんがレダ計画に加担する理由にもなっているからです。

2022年7月8日に安倍元首相が暗殺されました。その事が大変心を痛めた金井さんの妻、由紀子さん。事件後ずっと胸に太い杭が刺さったような重い感覚があったそうです。その由紀子



韓総裁。2024年7月祈りの中で「今後日本はどうなってしまうのでしょうか？」と天に語りかけていたところ、「パラグアイに語れ」の言葉で「パラグアイに降りてきた声です。由紀子さんは神様からメッセージだと考えました。そして、何度祈ってみても「パラグアイに行け」「早く行け」と答えは同じで、お尻を蹴飛ばされるような勢いだっただけです。

さて、金井さん夫妻には、由紀子さんの母親の介護など、パラグアイに渡る際にいくつかのハードルがありました。しかし不思議なことに、それらが奇跡的に解決していき、翌2023年9月、夫妻は日本での住居も全て整理し、退路を断ってパラグアイへの移住を果たしました。60代半ばの夫婦が、何と凄い行動力でしょうか！

金井さん夫妻はパラグアイに来たのは良いものの、来て何をすれば良いかが判っていたわけではありませんでした。神様が凄く剣幕で「行け！」とおっしゃるので「行けばわかるだろう」と思って来たのです。そこで、文総裁・韓総裁の理念を共有する仲間の皆さんの南米拠点を訪ね歩き、話を聞いて

てまわったそうです。レダ、アク

アムンド、グアラニー伝道所、そしてジャルジン。その中で、かつて総裁ご夫妻が計画した南米プロジェクトの存在を感じ、自分たちはそのプロジェクトに貢献する役目があって呼ばれたのだと悟るようになっていったそうです。

2024年、韓総裁をジャルジンにお迎えする前、研修所の工事が急がれていました。工費が不足していることを知った金井さんは、少しでも貢献したいと考えます。そして4月30日午前、送金を完了しました。同日午後、それまで極めて健康だった妻の由紀子さんが突然お亡くなりになりました。国康さんがどれほど悲しまれたことでしょうか。

金井さん夫妻が南米プロジェクトの要所を訪問した事は、「神様



何事も夫婦で一緒に

の啓示を受けて日本から南米に移住した夫婦がいると報告されていたこともあり、総裁ご夫妻が立ち上げた教団の中南米担当責任者の提案で、由紀子さんを送る葬儀は中南米33か国にライブ配信される大規模な行事になりました。葬儀では改めて金井さん夫妻移住のエピソードが33か国の人々に向けて語られました。

金井さん夫妻には3人のお子さんがいて、「一人になってしまったのだから日本に戻ってきてはどう？」と提案されたそうです。でも国康さんは「由紀子さんと2人で、南米プロジェクトに貢献しよう！」と誓った内容があるので、今はまだ日本には戻れない」と答えたそうです。

夫婦一体・何事も夫婦と一緒に行ってきた金井さんは、霊界と地上と、居る場所が分かれても不思議な絆で繋がっているようです。南米プロジェクトに関しては霊界から由紀子さんが加勢してくれているのを強く感じながら日々を送られています。金井さん夫妻の霊界地上共同作戦がレダの新事業をも大きく後押ししてくれているのです。

『私の様にこのプロジェクトに興味を持つ人がいたら、ぜひその人と話して、一緒に参加してもらえようように勧めていきたいと考えています。よい人がいたらどんと金井さんにも繋げてくださーいよ！』と、今日もロマプラタの拠点を守ってくれています。■

自然は常に変化している

昨年は草刈りに当たって完



レダの電気屋さん 第31回

昨年末から気になつてきたことがあります。レダにはカナン(蚊難)という言葉があるほど、蚊に悩まされる場所でした。特に雨季は部屋の扉の開け閉めにも気を使うほど蚊がまとわりついてくるのが常態で、暑い中でも蚊に刺されないように長袖の着用が欠かせませんでした。

ところが今年の雨季は、全くとつていいほど蚊がいまぜん。私は朝の浄水場の点検時に少し草刈りをします。全防備の蚊対策が必要だったのですが、今年は半袖で全く問題ないくらいです。また、昨年は大雨の被害で道路が半年近く寸断されましたが、今年は雨季になつてもあまり雨が降りません。3年住んでいてもレダの気候はよくわかりません。川の水位でさえ1年周期にはなつていない感じます。これも、スケールの大きな大陸といったことが、理由なのでしょうか？



自然の生態系を表現したイラスト (by GhatGPT)

私にはよくわかりませんが、一つ言えることは、今の自然環境を初期値として、様々な相互作用があり、未来が創造されるということです。来年はまた違った姿を見せてくれるでしょう。毎年新たな姿を現すレダの土地で、私たちが新たな姿に順応し、常に新たなレダを創造して行きたくなるものだと思います。(山崎茂章)

Go! パクー 30万匹まで

首都アスンシオンとレダを行き来する中継地としても大いに役立つ

南北米福地開発協会の創始者・文鮮明・韓鶴子夫妻は宗教家として世界に知られる人物ですが、文化・政治・経済分野でのビジョナリー(先見者)としても尊敬を集めています。当協会の活動もまだ小さな規模ですが、創始者の世界平和ビジョンに根を持っています。

この冷凍庫が2台設置され、400kg以上ストックできま

次期編集長のひとり言

▼韓総裁の祝福でスタートしている2026年ですが、大変化の年になりそうです。パ



レダにて、次期編集長。

ンタナール。レダ計画も例外ではないでしょう。物事には「いつまでも変わらない価値の事」といつまでもこだわらずに新たな創造に切り替えるべき事の二つがあると思います。それを見分けるには「大目的」が何かを見失わない事が重要だと思います。手段と目的を取り違えないよう。絶対視すべきは目的であり、手段は相対的なものです。▼昨年11月にロマプラタの拠点が開

設されましたが、これが水産の拠点としてだけでなく、

ラタに行くからまた購入したい」との連絡が入ったそう

すが1月14日に岩本さん(26歳)がレダへ出発。彼は養殖の経験者、水産を補強する重要メンバーです。スペイン語もちよつとイける! ▼また、岩本さんは川釣りを通して、文総裁の南米計画の精神を体得したいと自分の釣り道具も持って行く程なので、川のないロマプラタの要員にはなりませんように!との切なる祈りを私も紙面から飛ばします! ▼水産パクーの新たな稚魚の孵化が始まっており、第一回目が成功したと1月中旬に速報が入る。この時期、水産チームは24時間体制で監視を行うとの事。▼26年のパクーの販売目標は年5170匹、毎月430匹。水産の西永リーダーによれば、今の体制の拡充で30万匹までは養殖数を増やせるとの事。年30万匹売れば、おそらくその利益だけで今のレダが運営可能。日本からの支援ゼロでもレダが持続可能になる。Go! 30万匹。▼拡販には人材増員が必要で、ロマプラタ拠点専用の車も必要。冷凍庫付きで4万ドルの見積もり! これ、「車くらファン」やります! ▼パンタナールに興味を持つ50代経営者の方が出現。5月のレダプログラムに乗れるか? ▼パクーの新ブランド名を、来月発表予定! (原田経史)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘 2-15-1 ビリアベルデ 407 電話: 042-449-0183 メール: office@asd-nsa.com ホームページ: https://asd-nsa.com

パンタナール通信 電子版 (Blog) 日・韓・西・英・ポの5か国語。スマホでもパソコンでもお読みいただけます。

LINE公式アカウント レダの日常・日本の非日常 レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。 ←友だち追加はこちらから。